

平成22年度学校運営計画

学校名 大分豊府高等学校

平成22年度 ○成果 ●課題	学校教育目標	中期目標
<p>○豊府中学校からの第1期生を含む第25期生280名を迎えて、新しいシステムを円滑に運用し、中高一貫の教育体制の基盤を築くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの志望達成に向けたクラス・コース編成</li> <li>「ZERO限授業」「土曜講座」「トップレベル育成プログラム」</li> <li>「友愛プログラム」(人間関係づくり)</li> </ul> <p>○23期生は、現役のみで189名(昨年度は169名)、過年度生を含むと国公立大学200名以上の合格を達成した。</p> <p>○服装や頭髪など、豊府高校生らしいマナーについて、概ね確立できた。</p> <p>●本年度から始めた新しいシステムについて、更に徹底を図るとともに、不登校など、特別な支援を必要とする生徒への個別の指導の充実を図る必要がある。</p>	<p>校訓「感動・理知・友愛」、学校スローガン「Challenge and Step Up with Passion」のもと、高い志を持ち、創造的な知性と豊かな人間性と逞しさを備え、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成する。</p> <p>(1)併設型中高一貫教育体制「豊府方式」の確立</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①系統的、継続的な進路指導計画の作成</li> <li>②各教科指導計画の作成</li> <li>③中高合同・連携した生徒会行事・学校行事等の確立</li> <li>④中高合同・連携した部活動の確立</li> </ol> <p>(2)学力の向上と数値目標の達成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①数値目標の設定(全員の第一志望達成が基本)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校3年:最難関大学2名、難関大学20名、国公立大学200名以上</li> <li>・高校1・2年:最難関大学10名、難関大学50名、国公立大学220名以上</li> </ul> </li> <li>②教員の指導力の向上</li> </ol> <p>(3)人間力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①豊府生としてのマナーの徹底</li> <li>②文武両道の支援</li> </ol>	<p>生徒の第一志望達成させ、大分県一の進学校として地域に信頼され魅力ある学校となる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学進学への支援</li> <li>② 豊府生のマナーの徹底</li> <li>③ 学習と部活動の両立</li> <li>④ 全国から注目される併設型中高一貫教育校</li> </ol> <p>重点目標</p>

重点目標	具体的方策	◇取組指標 ◆成果指標	評価領域 (担当分掌等)
<p>(1)併設型中高一貫教育体制「豊府方式」の確立</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①系統的、継続的な進路指導計画の作成</li> <li>②各教科指導計画の作成</li> <li>③中高合同・連携した生徒会行事・学校行事等の確立</li> <li>④中高合同・連携した部活動の確立</li> </ol>	<p>○中高一貫教育体制の確立、「豊府方式」確立を推進するための原案を作成するために、「中高一貫プロジェクト会議」を設置する。</p>	<p>◇中高の教頭、進路・教務・特活主任をメンバーとして、隔週のペースで会議を実施し、学校経営の視点から様々な教育システムの原案を作成する。</p>	<p>学校運営(教頭)</p>
	<p>○学期毎の学習指導の課題を明確化し、3学期制における生徒の生活・学習リズムを円滑にし、学習意欲の喚起を効率的に図る。</p>	<p>◇各学期終了時に、学年、クラスで総括をし、それぞれの反省点を次の学期へ反映させる。 ◇各学期終了後に、成績上位者や特別な指導を必要とする生徒の指導について検討・実施する。</p>	<p>教務</p>
	<p>○中高一貫教育校として、生徒会行事・学校行事の確立と充実を図る。</p>	<p>◇豊饒祭文化の部・体育の部を9月に連続して開催する。 ◇活動時間を確保し、十分な準備のもとに学校行事のレベルアップを図る。</p>	<p>特別活動</p>
	<p>○「You-Iプログラム」を県教育センターと共同して取り組み、生徒間の円滑なコミュニケーションを促し充実した学校生活を送らせるようにする。</p>	<p>◇総学の時間の内、月1回「You-Iプログラム」を実施をする。実施後必ず検証を行い、次回以降のプログラムに反映させる。 ◆成果や課題を把握し、効果的な運営をするために、年4回のアンケートを行う。最終的に肯定的回答が「自尊心感情」において6割以上、「苦手と感じる相手とのコミュニケーション」で80%以上を目指す。</p>	<p>総学</p>
	<p>○不登校傾向の生徒を早期に発見できる体制を整備する。 ○外部機関と連携し、多様な生徒に対応した教育支援を行う。</p>	<p>◇ストレスチェックや個人面談により、気になる生徒は早期に教育相談を行う。 ◇欠席統計を小まめにチェックし、2週連続して2日以上または月に3日以上欠席があった生徒は自動的にチェックリストに載せ、診断する。 ◇教室での授業参加が困難な生徒に対し、SSルームを活用しながら、個別指導を充実させ、教室復帰を支援する。</p>	<p>教育健康相談</p>

(2) 学力の向上と数値目標の達成 ① 数値目標の設定 (全員の第一志望達成が基本) 高校3年: 最難関大学2名、難関大学20名、 国公立大学200名以上 高校1・2年: 最難関大学10名、 難関大学50名、 国公立大学220名以上 ② 教員の指導力の向上	○「学習方法習得体験ゼミ」により学習方法を体験的に習得させ、学習習慣を確立させる。 ○「自学タイム」を全学年で取り組み、自主学習の習慣を身につけさせる。	◇全学年とも1学期当初「学習方法体験ゼミ」を2日間、「自学タイム」を4月末までの放課後実施する。 ◇対外模試の結果およびスタディサポートの学習実態調査により検証を行う。 ◇自学自習室「マイウェイルーム」を活用して、学習習慣の確立をさせる。 ◆家庭学習時間の平均が1・2年で3時間以上、3年で4時間以上とする。	教務	
	○ホームルーム活動・講話・集会・面談をいっそう充実させ、持てる志を引き出し大きく伸ばす機会を設定する。 ○目標達成状況を教職員間で随時確認・共有し(学力分析会等の充実)、チームワークを組んで指導改善に活かす。	◇集会・面談等は教職員で足並みを揃え、事前に分掌・担任会等で意義や持ち方を充分検討し、効果的なものとなるよう計画的に実施する。 ◇分析会等は各学年3回以上実施する。その際の進め方や各統計資料の様式を工夫し、指導の軌跡を客観的に検証して即時改善できる態勢を作る。	◇集会・面談等は教職員で足並みを揃え、事前に分掌・担任会等で意義や持ち方を充分検討し、効果的なものとなるよう計画的に実施する。 ◇分析会等は各学年3回以上実施する。その際の進め方や各統計資料の様式を工夫し、指導の軌跡を客観的に検証して即時改善できる態勢を作る。	進路(学年)
	○応用力養成のための「土曜講座」、基礎基本の定着のための「ZERO限講座」を年間通して実施する。 ○トップレベル育成プログラムを段階的に実施し、難関大志望者を増やすとともに、難関大進学に対応した学力向上を図る。	◇「土曜講座」を年間15回(3年は10回)、「ZERO限講座」は年間160日(3年は130日)程度実施する。 ◆高3については「2. 20. 200」の数値目標の達成を目指す。 ◆高1・2については、「10. 50. 220」の数値目標の達成を目指す。	◇「土曜講座」を年間15回(3年は10回)、「ZERO限講座」は年間160日(3年は130日)程度実施する。 ◆高3については「2. 20. 200」の数値目標の達成を目指す。 ◆高1・2については、「10. 50. 220」の数値目標の達成を目指す。	進路(学年)
	○「キセキノート」の活用により、自主学習態勢を確立し、自己管理能力を高める。	◇高1を中心に毎日のホームルーム活動の中で「キセキノート」活用をする。 ◆「学習を中心とした生活ができてい」生徒、「部活と学習の両立ができてい」生徒の割合80%以上を目指す。	◇高1を中心に毎日のホームルーム活動の中で「キセキノート」活用をする。 ◆「学習を中心とした生活ができてい」生徒、「部活と学習の両立ができてい」生徒の割合80%以上を目指す。	進路(学年)
	○他校との連携も視野に入れて研究授業を各教科で実施する。特に、5教科については、複数回実施する。 ○「E-Week」期間中を授業研究期間と位置づけ、それぞれで授業研究を行う。 ○授業アンケートを実施し、授業改善につなげる。	◇各教科で、指導主事を招聘するなど、授業研究を充実させる。 ◆「E-Week」期間中の延べ参加人数200名を目標とし、中高相互の授業参観は全員を目標とする。 ◆「授業に満足している、理解できる」など肯定的な評価をする生徒の割合70%以上を目指す。	◇各教科で、指導主事を招聘するなど、授業研究を充実させる。 ◆「E-Week」期間中の延べ参加人数200名を目標とし、中高相互の授業参観は全員を目標とする。 ◆「授業に満足している、理解できる」など肯定的な評価をする生徒の割合70%以上を目指す。	教務
(3) 人間力の向上 ① 豊府生としてのマナーの徹底 ・特に、清掃と挨拶 ② 文武両道の支援	○「時を守り、場を清め、礼を正す」など決められたことを徹底する。 ○自転車通学のルールやマナーを守ることを徹底し、交通事故をなくす。 ○他人をいたわり、広く世の中に役立つ心を育てる。 ○学力向上、部活動向上の前にマナーの向上を徹底する。	◇生徒指導の徹底による人間力の育成を図る。 ◇清掃指導、挨拶指導を積極的に実施する。 ◇各学年毎にマナー講習会を実施する。 ◇インターネットや携帯電話について、利用上の注意事項を徹底する。 ◇生徒必携の内容を、HR活動等を活用し、年度当初に周知徹底する。 ◇豊府タイムスを隔月で発行する。 ◆交通事故・服装頭髪違反ゼロを目指すとともに、ゴミのさらなる減量を図る。	生徒指導	
	○部活動入部率を向上させる。 ○部活動の活動時間を確保する。 ○自宅課題(量・質)の適切な在り方を検討する。	◇部活動を通した人間力の育成を図る。 ◇放課後特別指導対象者を除き、平日17:00から部活動が開始できるように努力する。 ◇部活動の時間を厳守させ、月曜日をNO部活デーとする。 ◆高1は全員入部を目指し、入部率90%を目標とする。	◇部活動を通した人間力の育成を図る。 ◇放課後特別指導対象者を除き、平日17:00から部活動が開始できるように努力する。 ◇部活動の時間を厳守させ、月曜日をNO部活デーとする。 ◆高1は全員入部を目指し、入部率90%を目標とする。	特別活動